

令和2年度学校自己評価システムシート(県立和光高等学校)

目指す学校像 **創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校**

重点目標	1 意欲を育て、ひとりひとりの力をしっかりと伸ばす学習指導
	2 ルールと時間を守り、思いやる心と社会性を養う生活指導
	3 自分自身を正しく理解させ、自尊・自信を築く進路指導
	4 協力をと汗を流すことを尊ぶ、活気ある学校行事と部活動の充実及び地域への貢献

達成度	A ほぼ達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割以上)
	C 変化の兆し(4割以上)
	D 不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年間の少人数学級により高校での学びなおし・やり直しを目的に入学する生徒が多い。 入学段階では勉強への興味・関心が低く、学習姿勢や基礎的な学力に指導を要する生徒が含まれる。 全体としては意欲的に学習に取り組む生徒が増えている一方、昨年度は長期欠席の生徒が増加し、年間の欠席数は増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校入学以前の段階で何らかのつまずきを抱える生徒が多く、学習の準備や学ぶ姿勢、周囲の環境の整備など、基本的な学習への取り組み方についての指導が必要な生徒が含まれる。 個々の生徒の状況や学力の差が大きく、授業への興味を高める工夫や、授業の進度・難度の設定に配慮が必要である。臨時休業中の課題設定や、学校再開後の学習計画を含め、時代の変化、生徒の実態に即した指導方法を構築する必要がある。 学年末の成績を事由とした転退学者減少を継続するとともに、長期欠席者の減少を図る必要がある。 	授業研究を推進する。	<p>①教員相互の授業見学を推進し、意見交換を行い、授業スキルの向上に向けた校内の共助を確立する。</p> <p>②学習指導や臨時休業中の学習課題について、教員対象の研修会等を通して共通理解を深め、授業力向上を図る。</p> <p>③授業評価アンケート、授業公開でのアンケートを実施し、教員個々の授業力の伸長を図る。</p>	<p>①職員間相互の授業見学数</p> <p>②職員研修、研究協議への参加数</p> <p>③授業評価等アンケートの結果</p>			
	生徒の実態把握に基づいた学習指導を推進する。	<p>①1学年で2学級増、2学年で1学級増の2年間の少人数学級編成を継続し、臨時休業中の対応も含め、きめ細かな指導を行う。</p> <p>②二者面談・三者面談等を通じ生徒理解と情報の共有に努め、学習と生活の両面から一人一人に応じた指導を行う。</p> <p>授業巡回・チャイム着席など、生活指導と一体化した学習指導により、生徒が自ら学習に向かう姿勢を身に付け、定着させる。</p> <p>学校相談員、学習サポーター、多文化共生推進員、特別支援巡回指導員等と連携した指導を行う。</p> <p>③学校設定科目「ベーシック」と各教科の学習を通して基礎学力と自発的に学習に向かう意欲を育成する。「わかる楽しさ」をもとに学習意欲の向上を図る補習や課題、自習室の設定等、学習環境を整え、欠点保有者の減少を図る。</p> <p>④学習状況の変化を把握するための研修会を設定し、授業評価・学校評価等のアンケートで全体の実態を把握・分析する。</p>	<p>①③④学校評価等アンケートの結果</p> <p>②③優良者数と欠点者数、進級者数の変化</p> <p>③④実力診断テストなどによる学力の把握と分析による変化</p>				
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着に課題を抱える生徒が一定数在籍しており、整容等の指導が依然として必要である。 望ましい社会生活を送るためのソーシャルスキルが不十分で、状況に応じた態度をとることのできない生徒が一定数在籍している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在実施している整容指導を継続する。 ソーシャルスキルトレーニングの充実を図る。 様々な方策を講じて家庭との連携を進める。 	基本的生活習慣を定着させる。	<p>①5分前行動を心がけ、チャイム着席を徹底させる。</p> <p>遅刻指導を実施し、生徒の時間管理意識を向上させる。</p> <p>②授業開始時に整容指導を徹底し、授業に真剣に臨む姿勢を確立する。</p> <p>学年を横断した統一基準による指導を定着させる。</p> <p>保護者との連携により協力体制のもとで生徒指導を実施する。</p>	<p>①全体遅刻数・欠席数の変化</p> <p>②整容違反者の数の減少</p>			
	ソーシャルスキルを向上し、定着させる。	<p>①生徒会や委員会活動、また自立支援事業や就業体験事業など外部機関との連携を通じてソーシャルスキルの向上を図る。</p> <p>②生徒主導の学校行事を充実するために指導の工夫改善を実施する。</p> <p>③LHR等の時間を利用してソーシャルスキルトレーニングを実施する</p>	<p>①②年間委員会開催回数の増加</p> <p>①自立支援事業・就業体験の満足度結果</p> <p>②行事後アンケートの満足度・達成感の上昇</p>				
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体系的な進路指導を計画・実施しているが、生徒の進路希望が多岐にわたり、実態も多様である。 生徒の多くは進路に向けての活動には意欲的であるが、進路意識を持つまでに時間のかかる生徒がいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早い段階から具体的な進路目標を見据えさせるための段階的なキャリア教育の充実が必要である。 学力面での不安が消極的な選択につながり、進路に向けた活動が遅れる生徒がいる。 	生徒の学校生活への取り組み状況を改善し、進路意識を高める。	<p>①「高校生のための学びの基礎診断」を実施し、分析会を通じ、実態の把握や今後の学習活動に活用する。より効果的な実施のため、実施時期や評価の在り方について、検討を進める。</p> <p>②様々な角度から適切なアドバイスと励ましの言葉を与え、自らの進路と向き合える確かな自信を育む。</p> <p>面談により適切な目標を定めさせ、達成に向けて努力を継続させる。</p> <p>③「自立支援事業」・「就業体験事業」を活用し、面接指導・コミュニケーション訓練・就業体験等の支援を通じ、やりがい・生きがいを見出し適切な職業観を育成する。</p>	<p>①②③授業など学校生活に取り組む姿勢の変化</p> <p>②③学校評価アンケート(進路)での満足度</p> <p>②③進路希望調査での未定の減少</p>			
	早い段階での希望進路決定者を増加させる。	<p>①段階的な進路に係る計画を策定し、各学年ごとで実行する。</p> <p>②論文や面接練習などに、すべての教員が携わり、組織的・体系的な指導を実施する。</p> <p>③資格取得を奨励し、参加への呼びかけや補習を実施する。</p>	<p>①②進路決定結果の内容</p> <p>①②卒業時の進路未定者の減少</p> <p>③資格試験の受験者数の増加</p>				
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が低く、活動が停滞気味である。 部活動に対して消極的な考えを持っている生徒、或いは時間的に活動が制限される生徒が一定数在籍している。 地域との連携は進んでいるが、活動が一部の生徒に偏っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の部活動に対する意欲と向上心の醸成が必要である。 部活動と行事の活性化を通じて生徒がものごとを協力して達成する経験を経て総合的な人間力を育成することが必要である。 一層、地域との連携をすすめ、開かれた学校づくりの推進が必要である。 和光市国際交流プログラムは、本年度は生徒派遣予定(隔年にて派遣予定)となる。 	部活動を活性化させる。	<p>①部活動への参加を奨励し、日常の部活動を活性化させる。</p> <p>部活動の様子をホームページ等で紹介し、学校説明会や式典等の行事において学校の代表として活躍する気概を養う。</p> <p>部活動の活性化のための条件整備として、部活動関係費の充実を図る。</p>	<p>①部活動加入率の向上</p> <p>①「部活動」に関するホームページの更新回数の増加</p>			
	地域に貢献する意識と国際的な多様性に対する理解を向上させる。	<p>①近隣の小中学校や公共施設等、地域との連携を強化し、より多くの生徒がボランティアに参加できる体制を整える。</p> <p>和光市ボランティアセンター、社会福祉協議会等主催のボランティア活動等、地域との交流を深める。</p> <p>参加対象を生徒会・部活動から全体に広げるよう、広く生徒に呼びかける。</p> <p>②言語資格試験の取得を奨励し、国際理解を進める基盤をつくる。</p> <p>和光市との連携による国際理解教育の機会を生徒に提供する。</p> <p>言語資格取得の奨励し、受験希望者へ指導を行う。</p>	<p>①ボランティアへの参加者数の増加</p> <p>①連携、協力した外部機関の数の増加</p> <p>②国際理解教育プログラムへの参加者数の増加</p> <p>②言語資格試験等の受験者数の増加</p>				